

【山崎名誉主宰の俳句】

さりながら

山崎 聰

沙羅の花群集見えず空も見えず
左右からこえ迫りくる熱帯夜
鱒沈みおのれに時間よみがえる
籠り居の百日あまり桐の花
山蟻の甲冑のいろみちのくへ
きのうともちがうくらがり端居して
夏の雨待ち人のいる花屋の前
台風のあとの荒涼二番星
田も水も無病息災蛇いちご
さりながら播州龍野赤蜻蛉